トップの視点

地球環境問題に惑う

東ソー㈱　代表取締役社長　**山口　敏明**

ぼ　や　き

昨年秋，本誌に寄稿を頼まれて，簡単に引き受けてしまったことを後悔している．他のテーマならよかったのだろうが「地球環境」というのが悪かった．

依頼された場所が，環境問題を討議する国際会議が開催されていたストラスブルグであり，前の晩には隣り町のバーデンバーデンで，その会議の夕食会が，ドイツの東西統一を祝う前夜祭も兼ねた形で盛大に行なわれた．盛り上がった雰囲気の中で私自身も多少浮かれていたのだろう，「何か環境問題について」ともちかけられ，すぐに承知してしまったのが事の始まりである．その後半年間，私の環境問題についての気分と考え方がさまざまにゆらいだため，この原稿をまとめるのに，はなはだ難渋することになってしまった．

今年の始めまではまだ環境問題に楽観的な見方をいだいていた．そして正月休みに一応原稿を書き上げた．その後心境に大きな変化が生じた．最初は湾岸戦争の勃発である．いろいろのことが関連するが，最大のショックは「ecocide」(環境殺戮) ともいうべき事態が生じたことである．つづいて私が体調を崩してしまった．大したことはなくても一応病気静養となると，気持が消極的，懐疑的に陥りやすい．その間に前の原稿を読み直してみた．

中身は――最近の地球環境問題に対する世界的な関心の高まり，数々の国際会議と問題解決への積極的な動き，特定フロン全廃について昨年得られた合意や，その他数々の具体的成果，ハイライトは1992年にブラジルで開催予定の「環境と開発国連会議」(UNCED) である，諸々の準備が“サスティーナブル・ディベロップメント”をキーワードとして着々進んでいる――といった具合である．また私のかねての持論も臆面もなく述べている．――地球環境問題といっても内容は複雑多岐にわたる，環境保全のためには問題をローカル，ナショナル，リージョナル，グローバルに整理し，各段階ごとにそれぞれ責任をもって対応すべきである．現在の技術によって，コストさえかければ大部分の問題は解決可能である．ＣＦＣ全廃が決まったので残る最大の課題は CO_2 を主因とする地球温暖化問題である，この問題も今後期待される科学と技術のブレークスルーで克服できるはずである――といった調子で書いてある．

どうもあまりにも希望的，肯定的にすぎると感じた．書き直す必要があると思い込んだ．書き直すにはもっと勉強しなければ．幸い静養中で時間は十分ある．関係する本をずいぶんたくさん読んだ．勉強すればするほど解らないことが増えてきた．今まで自明のこととしていたものまで疑わしくなってしまった．とても明快な論旨で説を立てるなどおぼつかない心境に追い込まれた．そこで“ぼやき”を言いながら，もっか私が惑い，考えあぐねている事柄のいくつかを述べることで文責を果たす他ないと思いついた次第である．

地球環境問題への関心のいだき方

ぼやきが長くなってしまったが，環境問題について私の気持がゆれ動くのは，１つには周囲の環境の変化に原因がある．しかしより根本的には私の地球環境についての関心の在り方が，２つの異なる発想とスタンスから出発していることに起因

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

すると気づいた．

第1の発想は，私が製造業の経営者であることからスタートしている．経営者として当然持つべき責任感，義務感が環境問題に深い関心をいだかせる．われわれの事業活動が環境を悪化させてはならない．加害者とならないだけでなくより積極的に環境保全に貢献したい．また個別企業の範囲にとどまらず，日本産業・経済全体としてもさらに前向きにとり組むべきである．いかなる対応をすべきか，掘り下げた検討と議論が必要である．産業界として，日本が世界に対しリーダーシップがとれるようなコンセンサスも形成したい．昨年経済同友会に新たに地球環境委員会が設置されたのもこの発想による．

このような立場や発想からはどうしても楽観的，積極的な考え方が生まれてくる．環境問題を前向きに解決すべきである．環境保全と経済発展を両立させたい，当然両立すべきである．理想と希望を持って環境問題に対処していこう，となる．

もう1つの関心のいだき方，スタンスは私個人の好みにもとづくものである．地球環境問題を文明史的視点で考察したいという欲求である．単なる文明史論だけでなく，人類と宇宙の問題にまで結びつけて知りたいという厄介な衝動である．

第1の発想でも，真剣に問題をつめようとすると容易に解答が得られないことに気づく．まして第2の関心から環境問題に踏み込めば，路に迷うばかりで，結論など到底得られそうにもない．懐疑的，悲観的な気分に陥りやすいゆえんである．

われわれの文明は基本的に環境保全に合致するものなのか．主権国家と資本主義経済システムの中で，環境優先主義が本来的に貫徹，強制可能であろうか．貧困と環境の矛盾，ますます激化する南北問題が解決できるか．エコロジー経済学といったものが成立するのか．また地球環境問題に可逆性があるのか，それとも不可逆的なものなのか．環境悪化は動脈硬化のような成人病なのか，進行の早い癌なのか．

人類の歴史の中で，われわれは現在どのあたりに生きているのか，あとどのくらい人類は生存をつづけられるのか，つづけるべきなのか．20世紀の人類は，未来の人類のどのあたりにまで責任があるのか．

等々設問はいくらでも出てくるが，まだ迷路の入口をうろうろしながら，地球環境問題は難かしい，だが面白いと感じているのが実体である．

地球環境問題・解らないこと

もっか一般的には9つの地球環境があるといわれている．それぞれに解らないことが多いが，すべてを採り上げる余裕がない．その中で基本にかかわる共通的要素3つだけを列挙しておきたい．

第1は人口問題．25億，53億，63億，90億人という国連統計と予測（年次はあててください）をどう考えるか．世界人口の無制限増大を是認するのか，自然に頭打ちとなるのか，環境と矛盾しない適正人口はどれくらいか．抑制の手段方法はあるのか，私には解らない問題である．

第2はエネルギー問題．化石燃料はいつまでどれほど使えることになるか．化石燃料の代替エネルギーは再生可能エネルギーかそれとも原子力かあるいは核融合か．今回の湾岸戦争で環境とエネルギーの問題がいよいよ解らなくなってきた．

第3は“Sustainable Development”ということである．英字で表わしたのは意味が解らないからである．幾通りかの訳があるが“持続的開発”とでも理解すると達成困難なキーワードとなってしまうのではないか．環境保全と両立できるのはせいぜい“持続可能な社会”※ 程度と考えているのだが．

脈絡のないことをあれこれ述べたが，これはあくまで私個人の感いであって，経済同友会の委員会とはなんらの関係もないことをお断りしておきたい．

※ 持続可能な社会についてはワールド・ウォッチ研究所「地球白書90—91」を参照されたい．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．